



日耳鼻医学会 F A X ニュース NO 168

平成22年9月27日 発行 (特)日本耳鼻咽喉科医学会 E-mail jimuj@jenti.or.jp HP http://www.jenti.or.jp
〒104-0031 東京都中央区京橋2-11-8 全医協連会館5F FAX 03-5524-5228 TEL 03-5524-5230

第35回臨床家フォーラム盛會理に終わる

日耳鼻医学会役員が担当して9月19日(日)・20日(月・祝日)の2日間、品川のココヨホールで開催された第35回臨床家フォーラムは約200名の参加のもと、盛會理に終了した。

今回は従来と趣を変えて、直接医療経営に関わることをテーマに開催したが、それぞれの主題のもと、多くの参考になる講演が続き、内容のある有意義なフォーラムであった。

また、「医院のための雇用関係法規集」や、このフォーラムの為に書き下ろしたという寺本和生税理士の「生きるとういうこと」の本など当日配布された種々の資料はすぐに役立つと喜ばれていた。フォーラムの詳細は後日誌「かがみ」(フォーラム特集号)に掲載。

名誉会員・功労会員の表彰行われる

9月19日(日)フォーラム初日の第2主題終了後、これまで日耳鼻医連・日耳鼻医学会を通して特に功労のあった下記6名の先生を名誉会員として表彰した。(敬称略)

清水淑郎(東京)・関根惟和(徳島)・藤谷昭平(東京)・本城好春(佐賀)・兼子順男(東京)・笠原行善(東京)

また、荒川雄司先生(鳥取)はじめ34名の先生が功労会員として表彰された。

医会長協議会は11月28日(日)開催予定

9月20日、ココヨホールで開催された第2回全理事会(移動理事会)で役員の仕事分担と今後の会議日程が協議され、医会長協議会は11月28日(日)開催が決まった。特別講演の講師には環境省環境保健部長で前厚労省医療課長の佐藤敏信先生が予定されている。詳細は後日、医会長宛発送予定。

来年のフォーラムは群馬県高崎市で

第36回臨床家フォーラムは群馬県耳鼻咽喉科医学会(会長 森 喜一先生)が担当して来年8月27日(土)・28日(日)の二日間、高崎市のホテルメトロポリタン高崎で開催されることが発表された。スローガンは「継続は力 フォーラムに集い更なる団結と飛躍を」

診療報酬支払いの早期化を検討

厚労省は9月8日の社会保障審議会・医療保険部会で、診療報酬の支払い早期化を検討していることを明らかにした。レセプト電子請求が今年7月から医科診療所でも原則化となり、電子請求の割合が医科で9割近くに上がっていることを受けて、電子請求のインセンティブとして検討する。実現すれば最大で15日程度支払が早まることになる。実現に向けた課題として、保険者の資金繰りやシステム改修、電子請求のみ早期化することにより、審査支払機関への納入が2回になることが挙げられる。(JapanMedecine 9月14日)

国内承認遅れの海外医薬品保健摘要迅速に

厚労省は8月23日、海外で標準的に使用されているが国内では保険適用外の抗癌剤などについて「医療上の必要性が高い」と判断した場合、迅速に保険適用する方針を固めた。海外の臨床試験(治験)結果などを活用し早期に承認する「公知申請」の対象にすることを認めた段階で保険適用と

する考え。第1弾として、卵巣癌用のゲムシタピンや再発して切除不能な胃癌用のカペシタピンなど5薬品について、7疾患への適応拡大を対象とする。

同省は検討会議で計374件の公知申請を検討してきた。今回の5薬品7件の他、現在は先天性代謝異常治療用のレボカルニチンなど計29件について公知申請の妥当性を検討している。(8月24日 日経新聞)

ホメオパシー「治療への使用謹むべき」

日本学術会議は8月24日、代替療法の1つである「ホメオパシー」についての会長談話を公表し、「ホメオパシーの治療効果は科学的に明確に否定されている。それを『効果がある』と称して治療に使用することは厳に慎むべき行為」との認識を示した。

学術会議によると、ホメオパシーは植物・動物組織・鉱物などを水で100倍に希釈し振とうする作業を十数回～30回程度繰り返して作った水をレメディ(治療薬)と呼ばれる砂糖玉にしみ込ませ、あらゆる病気が治療できるとする療法。近代的な医薬品や安全な外科手術が開発される以前に「副作用がない治療法」として当時、欧米各国で広まった。

過去に「ホメオパシーに治療効果がある」とする論文が発表されたこともあるが、その後の検証でホメオパシーの効果はプラセボと同様で、治療として有効性がないことが科学的に証明されている。

談話では「ホメオパシーが医療関係者の間で急速に広がり、施療社養成学校までが出来ている。このことについて強い戸惑いを感じざるを得ない」と述べた。

これについて原中日医会長と高久日本医学会会長は8月25日、その内容について全面的に賛成するとした。

耐性菌生みにくい薬剤実用化目指す

京都府立大学の宮崎孔志准教授らの研究チームは緑膿菌や黄色ブドウ菌などの院内感染の原因となる病原菌の働きを抑える薬剤を突き止めた。感染に必要な物質や、感染後に作られる毒素などを減らす作用がある。新発見の薬剤は病原菌を殺さないで、菌が薬剤耐性を持ちにくい。院内感染の予防や、感染後の発症抑制に繋がるとみられる。虫歯予防向けなどとしても実用化の道を探る。

研究チームは今回の薬剤が様々な病原菌に幅広く使えると見ており、多剤耐性菌にも有効かを試す。今後は動物実験もすすめる。(日経新聞9月14日)



GlaxoSmithKline 生きる喜びをもっと Do more, feel better, live longer

定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤

処方せん医薬品(注意-医師等の処方せんにより使用すること) 薬価基準収載

アラミスト[®] 点鼻液27.5μg 56噴霧用

Allermist[®] 27.5μg 56metered Nasal Spray フルチカゾンフランカルボン酸 エステル点鼻液

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

製造販売元(輸入) **グラクソ・スミスクライン株式会社** グラクソ・スミスクラインの製品に関するお問い合わせ・資料請求先
TEL: 0120-561-207(9:00~18:00/土日祝日および当社休業日を除く)
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-6-15 GSKビル | FAX: 0120-561-047(24時間受付)

2010.5